表現力を育てる英語科学習指導
～Bridge Sheet を位置づけた自己表現活動の工夫を通して～

要約

社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語による「発信力」の育成が重要であり、その前提となる語彙や文構造などの基礎的・基本的な知識を含め、体験、知識の定着、活用といった指導内容の重点化を図られてきた。

今回の学習指導要領の改訂では、「聞くこと」「話すこと」という音声面での指導を充実し、身近な事柄についてコミュニケーションを図ることができるようにし、「読むこと」「書くことの指導の改善を図ることによって４技能をバランスよく指導して「発信力」の向上を重視している。「発信力」を向上するための言語活動を充実化させるために、「書くこと」については自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝えられるように、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視することとなった。

そこで、本研究では、Bridge Sheet を位置づけた自己表現活動を行うことで、文法能力、談話能力の育成を図る。

Bridge Sheet を位置づけた自己表現活動とは、次のようなものである。

（１）第一次　モデルを視聴し、イメージマッピングを用いた対話と課題設定。

（２）第二次　Open Sentence Practice を活用した Bridge Sheet を用いて新出言語材料の学習をし、自己表現文をつくる。

（３）第三次　モデルリーディングを行い、Bridge Sheet の自己表現文を用いて原稿を作成する。

成果

○　Bridge Sheet を用いた自己表現活動において、新出言語材料を使って自分の思いや考えを繰り返し伝え合ったことで、生徒の文法能力を高めることにつながった。

○　Bridge Sheet で蓄積英作文をし、モデルリーディングを参考にそれらをつなぎあわせて単元のまとめの自己表現文を書いたことは、生徒の談話能力を高めることにつながった。

課題

●　Bridge Sheet[Step6（友達からの聞き取りの英文再現）][Step7（第三次の自己表現文に向けての文蓄積）]や第三次での付加修正の仕方を工夫するなどの手だてが必要である。

●　イメージマッピングの中から特に伝えたい項目を選ぶための手だて、さらには生徒の思考をつなぐイメージマッピングのあり方を工夫する必要がある。

キーワード

Bridge Sheet　文法能力　談話能力

１　主題設定の理由

（１）　英語科学習指導の動向から

社会や経済のグローバル化が急速に進展する中、英語による「発信力」の育成が重要であり、その前提となる語彙や文構造などの基礎的・基本的な知識を含め、体験、知識の定着、活用といった指導内容の重点化を図られてきた。

今回の学習指導要領の改訂では、「聞くこと」「話すこと」という音声面での指導を充実し、身近な事柄についてコミュニケーションを図ることができるようにし、「読むこと」「書くこと」の指導の改善を図ることによって４技能をバランスよく指導して「発信力」の向上を重視している。「発信力」を向上するための言語活動を充実化させるために、「書くこと」については自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝えられるように、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視することとなった。このことから、自己表現活動を工夫し、生徒の表現力を高めることは価値があるものである。

（２）　生徒の実態から

事前の実態調査の結果、英語を話すことにおいては全体の４０％が「好き」と回答しており、「話すこと」・「聞くこと」には、前向きに取り組む生徒が多い。しかし、「書くこと」においては３１％しか「好き」と回答しておらず、書くことには苦手意識が強い。その理由として「単語がわからない」「難しい」などをあげている。また、班やペアでの交流など小集団で自分の意見を言うことには抵抗感が少ないが、全体の場で発表することには抵抗感があり、「恥ずかしい」「自信がない」などの理由をあげている。

また、4 月に実施された標準学力分析検査の結果では自由英作文の平均正答率が 17%であった。このことから、実際の言語場面において適切な語彙や文法を運用して表現する力が十分ではなく、自分の思いや考えを述べたり、書いたりして伝えることが苦手であることが明らかになった。

このことから、小集団で自己表現をする活動を仕組み、生徒の書く力を高めることは価値があると考える。

２　研究主題・副題の意味

（１）研究主題の意味

○「表現力」とは

自分の思いや考えを適切な語彙や文法を用いながら表し、さらに意味のつながりなどを考慮しながらまとまりのある複数の文で書く能力のことである。本研究では、表現力を次のようにとらえる。

ア　文法能力(grammatical competence)

＝自分の思いや考えを書くことにおいて、必要な語彙や文法を正しく用いる能力。

イ　談話能力(discourse competence)

＝意味のつながりなどを考慮しながらまとまりのある複数の文で書いて表す能力。

（２）副題の意味

①　Bridge Sheet とは、Open Sentence Practice（オープンセンテンスプラクティス）を活用した新出言語材料の文型定着と自由英作文につながる文を蓄積することをねらいとしたシートのことである。Open Sentence Practice とは、米山朝二(2003)は基本文の空所

に語句を自由に入れて、自分にあるいは状況に合った文を作り、それを用いて意味のある情報交換を行う活動であると定義している。

本研究では、新出言語材料を用いた文の空所に語句を自由に入れて自己表現文を 3 文つくり、ペアの相手に伝え、新出言語材料の定着を図ることをいう。

② 自己表現活動とは次の２つのことを意味する。

ア 新出言語材料の定着を図るための自己表現活動

イ 単元のまとめとして行う自己表現活動

③ Bridge Sheet を位置づけた自己表現活動の工夫とは Step1 から Step7 までの段階を踏む以下の活動のことである。

Step1 [場面設定]	場面を提示する。
Step2 [例文の提示]	新出言語材料を提示する。
Step3 [個人作業]	Bridge Sheet に新出言語材料を用いた文の空所に語句を自由に入れて自己表現文を 3 文つくる（Open Sentence Practice）
Step4 [ペア活動]	Step3 で作った３つの自己表現文を Bridge Sheet の対話の型にのせて、ペアで自分の考えを伝え合う。
Step5 [グループ発表]	４人グループとなり、一組のペアの対話をもう一組のペアが聞く。聞き取りの際は自己表現文から得た情報をメモする。
Step6 [Writing]	Step5 で聞き取った情報を英文にする。その後、グループ内で Bridge Sheet を交換して新出言語材料の付加修正を行う。
Step7 [Writing]	新出言語材料を用いて単元のまとめとして行う自己表現文に必要な英文を一文以上書く。以下、これを蓄積英作文と呼ぶ。

具体的には以下の Step1 から Step7 の過程を経る。

その作業をペアで繰り返すことによって、自分の思いや考えを述べられるようになるとともに、新出言語材料を用いた文の定着を図る。

【実践１ Unit4 の Bridge Sheet 例】

Step1 [場面設定] Mention 3 things you have to do tonight.

Step2 [例文の提示] I have to _____ tonight.

Step3 [個人作業] Write 3 sentences. I have to cook dinner tonight. I have to clean my room tonight. I have to do my homework tonight.

Step4 [ペア活動]

A: I have to cook dinner tonight.

B: Really? You have to cook dinner tonight.

A: Yes, I have to cook dinner tonight. How about you?

B: I have to help my mother tonight.

A: I see. You have to help your mother tonight. I have to clean my room tonight.

B: All right. You have to clean your room tonight.
Oh, I have to take a bath tonight, too.
A: You have to take a bath tonight. I have to do my homework tonight.
B: You have to do your homework tonight. I have another thing to do. I have to study English tonight.
A: OK. You have to study English tonight.

Step5 [グループ発表]

Step6 [Writing] Student A has to cook dinner tonight. He has to clean his room. He has to do his homework.

Step7 [Writing] You have to speak Japanese. You have to say "Itadakimasu" before meal.

３　研究の目標

中学校第２学年英語科学習指導において、自己表現活動を取り入れた表現力を育てる英語科学習指導法の在り方を究明する。

４　研究の仮説

中学校第２学年英語科学習指導において、Bridge Sheet を位置づけた自己表現活動を行えば、生徒の表現力を育てることができるであろう。

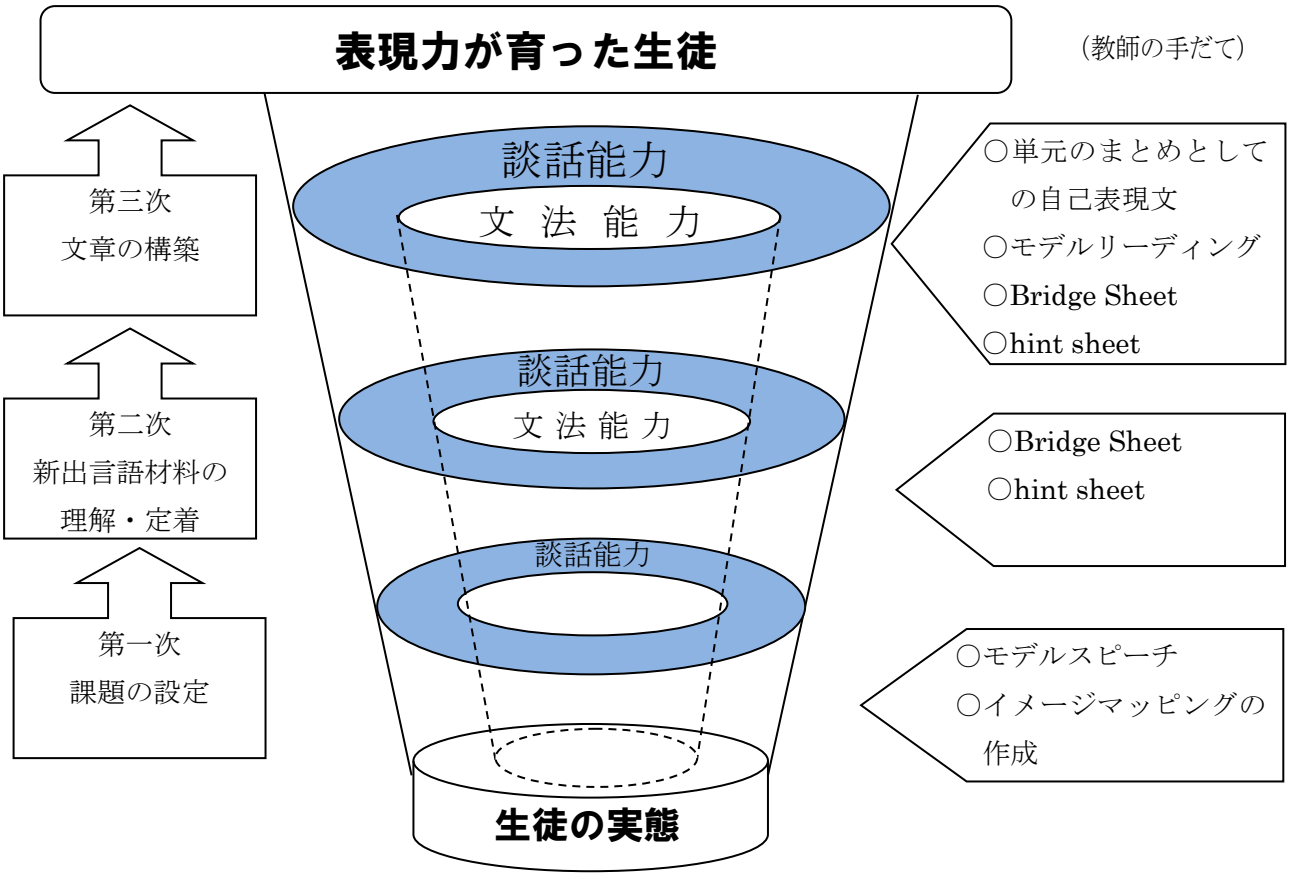
５　仮説検証の内容と方法

検証内容	検証方法	評価基準	
単元のまとめの文において、新出言語材料を理解し、書くことができたか。（文法能力）	・単元のまとめとしての自己表現文の分析（新出言語材料の使用）	A	新出言語材料を３つ以上使って、すべての文を正しく書ける。
		B	新出言語材料を２つ使って、すべての文を正しく書ける。
		C	新出言語材料にエラーがある。もしくは新出言語材料を使っていない。
単元のテーマに沿って、文と文のつながりを意識しながら、まとまりのある文を書くことができたか。（談話能力）	・単元のまとめとしての自己表現文の分析（discourse marker の使用） ※discourse marker の具体例 as for、for example、 so、 but、also、because、first、second など） ・まとまりのある文（文の数）	A	discourse marker５つ以上を用いて、かつ７文以上を書くことができる。
		B	discourse marker２～４つを用いて、かつ４～６文を書くことができる。
		C	discourse marker を用いて４文を書くことができていない。

抽出生徒 A： 英語学習に対して意欲的であるが、文法能力、談話能力ともに低い。
抽出生徒 B: 英語学習に対する意欲はあるが、文法能力は中程度であるが、談話能力が低い。

６　研究の構想

（１）研究の構想図



（２）Bridge Sheet を用いた学習過程

モデルは以下のようになる。

次	【第一次】	【第二次】	【第三次】
ねらい	自分に必要な言語材料や内容に気づき、自分の課題を設定することができるようにする。	伝えたい内容を適切な言語材料を正しく用いて構成し、理由や例示、詳しい説明を付加しながら複数の文で表現することができるようにする。	自分の思いや考えを文のつながりを考えながらまとめることができる。
活動	①モデルを視聴する。 ②イメージマッピングを行う。 ③子ども同士によるマッピングを用いた対話と課題設定をする。	①Bridge Sheet を用いて新出言語材料の学習をし、自己表現文をつくる。 ②教科書の内容を学習する。 （①②を繰り返す）	①モデルリーディングを行う。 ②Bridge Sheet の自己表現文を用いて原稿を作成する。 ③グループで付加修正を行い、文を完成させる。 ④ALT に紹介する。
教師の援助	・イメージマッピング ・モデルスピーチ	・Bridge Sheet ・hint sheet	・単元のまとめとしての自己表現文 ・Bridge Sheet ・モデルリーディング ・hint sheet
高まる能力		文法能力 談話能力	文法能力 談話能力

7　研究の実際と考察

（1）　実践１の実際と考察

実践１　have to / has to の文、助動詞 must、will などの文や適切な語彙を用いて表し、意味のつながりなどを考慮しながらまとまりのある複数の文で ALT のための「日本生活の心得ガイドブック」を書くことができる。

ア　第一次

第一次の活動では、生徒は来日して間もない ALT に日本生活の心得を紹介する文を作成し、伝えるという活動に対して興味・関心を高め、その内容や表現についての課題を明確にすることをねらいとした。そこで、ALT から日本の生活において困っていることや、アメリカで禁止されていることなどについて写真を見せながら聞かせ、アメリカと日本の生活や文化の違いが比較できるようにした。その後、ALT のモデルスピーチを参考にしながら、イメージマップを行った。その際、ALT のモデルスピーチを参考にしながらペアでイメージマッピングをもとに英語で伝え合うことによって、新出言語材料の必要性を理解させ、単元を学習する課題意識を持たせた。

イ　第二次

第二次の活動では、生徒は言語材料を理解し、日本生活の心得ガイドブックを紹介する文を完成するために一文英作文を蓄積することをねらいとした。そのために、言語材料を用いて自分の考えを書かせ、Bridge Sheet にのせて自分の考えをペアで繰り返し伝え合う活動を仕組んだ。

【写真１　英文を伝え合っている場面】

まず、言語材料を理解させるために、使用場面を意識したスライドをスクリーンで提示し、新出言語材料の口頭練習を行ってから、それを用いて課題に対する自分の考えを英文で３つ書かせて、Bridge Sheet にのせて自分の考えを伝える場を設定した。次に、Bridge Sheet の形式に従って自分の考えをペアで伝えあい、４人グループで同様に自分の考えを発表させることによって、繰り返し自分の考えを伝えあわせた。【写真１】その後、聞き取った友達の考えを”Taro has to clean his room.”のように英文に直させて、新出言語材料の定着を図った。さらに、その英文をクラス全体に発表させることで友達の考えを共有することができ、新出言語材料が正しく活用できているか確認することができた。最後に、新出言語材料を活用して第一次で完成したワードマッピングを一文以上の英文を書いて単元のまとめの英文を蓄積し、第三次につなげた。

ウ　第三次

これまで単元を通して身につけた表現や語彙を用いて、ALT の先生に日本で生活する上で注意すべきことを紹介する文を書いて表現することをねらいとした。まず、生徒それぞれに第二次の Bridge Sheet を活用してできあがった一文英作文を並べ、意味のつながりを考えさ

た。そこで、モデルリーディングの活動を設定し、相手に伝わりやすくさせるために first, second, third など段落の構成が必要であることに気づかせ、その段落の構成の仕方を学ばせた。その上で、hint sheet を活用しながら日本生活の心得を紹介するライティングを行わせた。ライティングには、第二次で蓄積した英文が有効に活用されていた。その後、内容を膨らませたり、新出言語材料のエラーを減らしたりするために、グループ内で付加修正をして、再度内容の再構築をさせた。しかし、数名の生徒は文法のこだわるあまり、自分の考えを加えることができていなかった。

実践１では、段落の構成を考え、かつ４文以上で自分の考えを書くことができた生徒は全体の 61.7%であった。しかし、文のつながりを考えて but、so、and などの接続詞を用いて書くことができた生徒は 48.4%と低かった。また、ALT のスピーチを聞いて課題設定をしたため、日本の文化と比較する材料が限定されてしまったためにイメージマッピングの考えが広がらなかったと考える。そこで、実践２では第一次でイメージマッピングを作成するための手だてを工夫し、第三次で discourse marker を用いて書くことを重点的に指導することとした。

（２）実践２の実際と考察

実践２	when、if、because 節の文や適切な語彙を用いながら表し、また意味のつながりなどを考慮しながら and、so、but などの discourse marker を用いてまとまりのある複数の文でおすすめの県の魅力を ALT に書くことができる。

ア　第一次

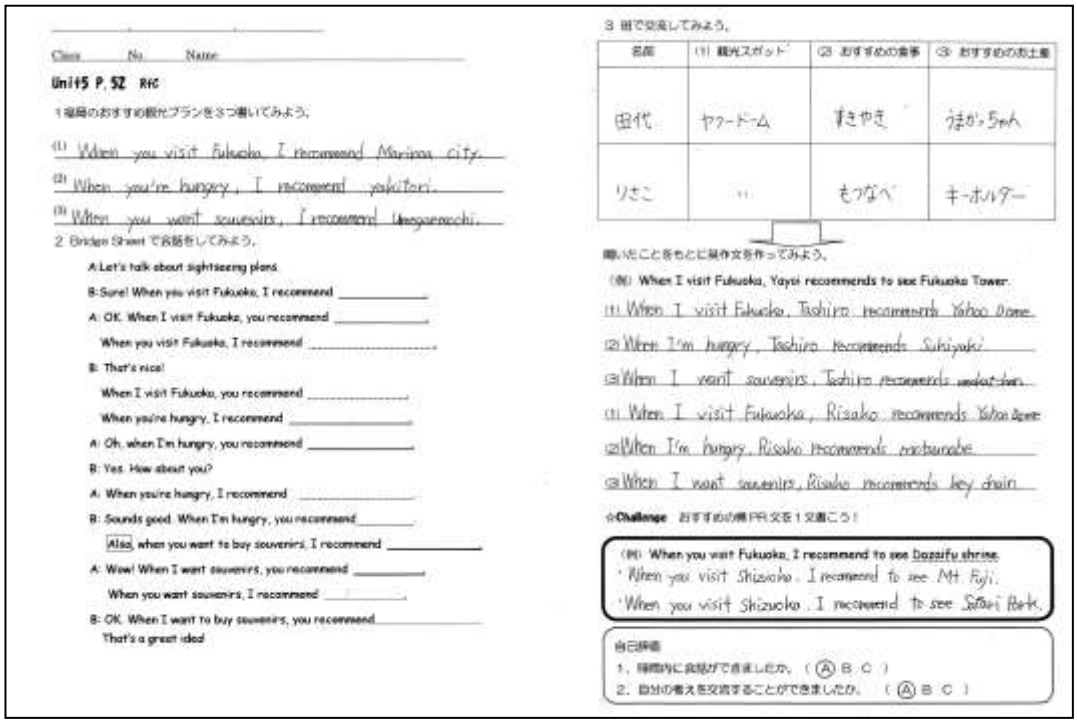
おすすめの県の魅力を紹介する文を作成し、ALT に伝えるという活動に対する興味・関心を高め、その内容や表現についての課題を明確にすることをねらいとした。

まず、興味・関心を高めるために、モデルスピーチを行い、ALT を対象にして紹介し、紹介文のイメージを持たせた。次に、実践 1 の課題を受け、書籍を用いて自分の考えを膨らませるようにしてイメージマッピングを作成させた。その後、ペアでイメージマッピングをもとに英語で伝えあうことによって、新出言語材料の必要性を理解させ、単元を学習する課題意識を持たせた。

イ　第二次

言語材料を理解し、それらを用いて自分の考えを書かせ、Bridge Sheet にのせて自分の考えをペアで繰り返し伝えあい、おすすめの県の魅力を紹介する文を完成するために一文英作文を蓄積することをねらいとした。

ここでは、談話能力を高めるために Bridge Sheet の英文の内容に工夫を凝らし、実際の会話場面で相づちをうつときに使用する”Sure!” ”That’s nice.” ”Sounds good!”などを取り入れ、より実践的なものにした。また、実践１で接続詞を十分に使えていなかったことから、also を取り入れて意識づけるようにした【資料 2】。さらに、より文法能力を高めるために Step6 で完成した英作文をグループ内で付加修正するようにさせ、新出言語材料を正しく使えているか確認する場を設定した。その結果、実践１より新出言語材料のエラーが少なくなった。



Class　No.　Name

Unit5 P.52 R/C

1 場所のおすすめの観光プランを3つ書いてみよう。

(1) When you visit Fukuoka, I recommend Marinoa city.
(2) When you're hungry, I recommend yakitori.
(3) When you want souvenirs, I recommend Uwogurochi.

2 Bridge Sheet で会話をしてみよう。

A: Let's talk about sightseeing plans.
B: Sure! When you visit Fukuoka, I recommend _____.
A: OK. When I visit Fukuoka, you recommend _____.
When you visit Fukuoka, I recommend _____.
B: That's nice!
When I visit Fukuoka, you recommend _____.
When you're hungry, I recommend _____.
A: Oh, when I'm hungry, you recommend _____.
B: Yes. How about you?
A: When you're hungry, I recommend _____.
B: Sounds good. When I'm hungry, you recommend _____.
Also, when you want to buy souvenirs, I recommend _____.
A: Wow! When I want souvenirs, you recommend _____.
When you want souvenirs, I recommend _____.
B: OK. When I want to buy souvenirs, you recommend _____.
That's a great idea!

3 班で交流してみよう。

名前	(1) 観光スポット	(2) おすすめの食事	(3) おすすめのお土産
田代	ヤフードーム	すきやき	うまかっちゃん
りさこ	〃	もつなべ	キーホルダー

聞いたことをもとに英作文を作ってみよう。

(例) When I visit Fukuoka, Yayoi recommends to see Fukuoka Tower.
(1) When I visit Fukuoka, Tashiro recommends Yahoo Dome.
(2) When I'm hungry, Tashiro recommends Sukiyaki.
(3) When I want souvenirs, Tashiro recommends wakatabi.
(1) When I visit Fukuoka, Risako recommends Yahoo Dome.
(2) When I'm hungry, Risako recommends motsunabe.
(3) When I want souvenirs, Risako recommends key chain.

☆Challenge おすすめの県PR文を1文書こう！

(例) When you visit Fukuoka, I recommend to see Dazaifu shrine.
・When you visit Shizuoka, I recommend to see Mt. Fuji.
・When you visit Shizuoka, I recommend to see Safari Park.

自己評価
1. 時間内に会話ができましたか。（Ⓐ B C）
2. 自分の考えを交流することができましたか。（Ⓐ B C）

【資料２　単元を通して使用した Bridge Sheet】

ウ　第三次

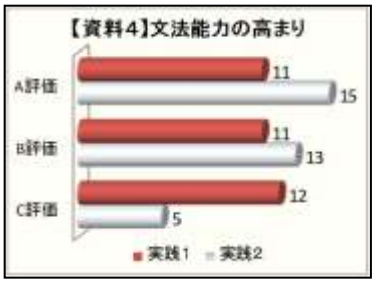
これまで単元を通して身につけた表現や語彙を用いて、ALT の先生におすすめの県の魅力を紹介する文を書いて表現することをねらいとした。まず、実践１の課題を受け、モデルリーディングの際に接続詞を用いて書いた文と用いずに書いた文を読んで比較させ、接続詞の有用性に気づかせた。また、but, and, so だけでなく、この単元で学習した as for, for example などを用いた例を hint sheet で示し、接続詞の使い方を学んだ上でライティングを行った。多くの生徒が辞書を用いながら意欲的にライティングに取り組んでいた。また、内容の再構築をする際に、実践１よりも付加修正や内容を膨らませるためのアドバイスがうまくできるようになった。

（２）研究結果と考察

検証内容１:第三次で書いた自己表現文において、新出言語材料を理解し、書くことができたか。（文法能力）

検証内容	検証方法	評価基準	
単元のまとめの文において、新出言語材料を理解し、書くことができたか。（文法能力）	・単元のまとめとしての自己表現文の分析（新出言語材料の使用）	A	新出言語材料を３つ以上使って、すべての文を正しく書ける。
		B	新出言語材料を２つ使って、すべての文を正しく書ける。
		C	新出言語材料にエラーがある。もしくは新出言語材料を使っていない。

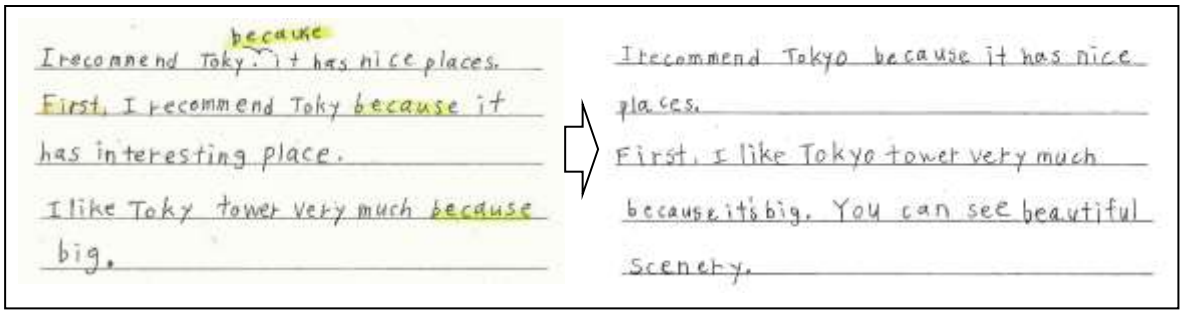
第三次で書いた自己表現文の分析によると、実践１では A の生徒が 11 人。B の生徒が 11 人であった。さらに、実践２では A の生徒が 15 人、B の生徒が 13 人であった。特に、C になっている生徒については、実践１では 12 人であったが、実践２では５人と半減した【資料４】。この生徒たちは新出言語材料を用いているものの、英単語や文法にエラーがあった。



このことは、生徒が新出言語材料を用いて自分の思いや考えを Bridge Sheet にのせて、繰り返し話したり書いたりしたことが新出言語材料の定着に有

効に働いたと考えられる。また、抽出Ａの生徒はＢの評価であり、このことは生徒同士がグループ内でアドバイス活動を行い、文法について付加修正をしたことが有効であったと考えられる。

しかしながら、Ｃ の子どもが実践２で３人いることから、英語を得意としない生徒の文法能力を高めるためには、さらに Bridge Sheet[Step6（友達からの聞き取りの英文再現）][Step7（第三次の自己表現文に向けての文蓄積）]や第三次での付加修正の仕方を工夫するなどの手だてが必要である。



【資料５　抽出生徒Ａの単元のまとめとしての自己表現文の付加修正の例】

検証内容２:単元のテーマに沿って、文と文のつながりを意識しながら、まとまりのある文を書くことができたか。（談話能力）

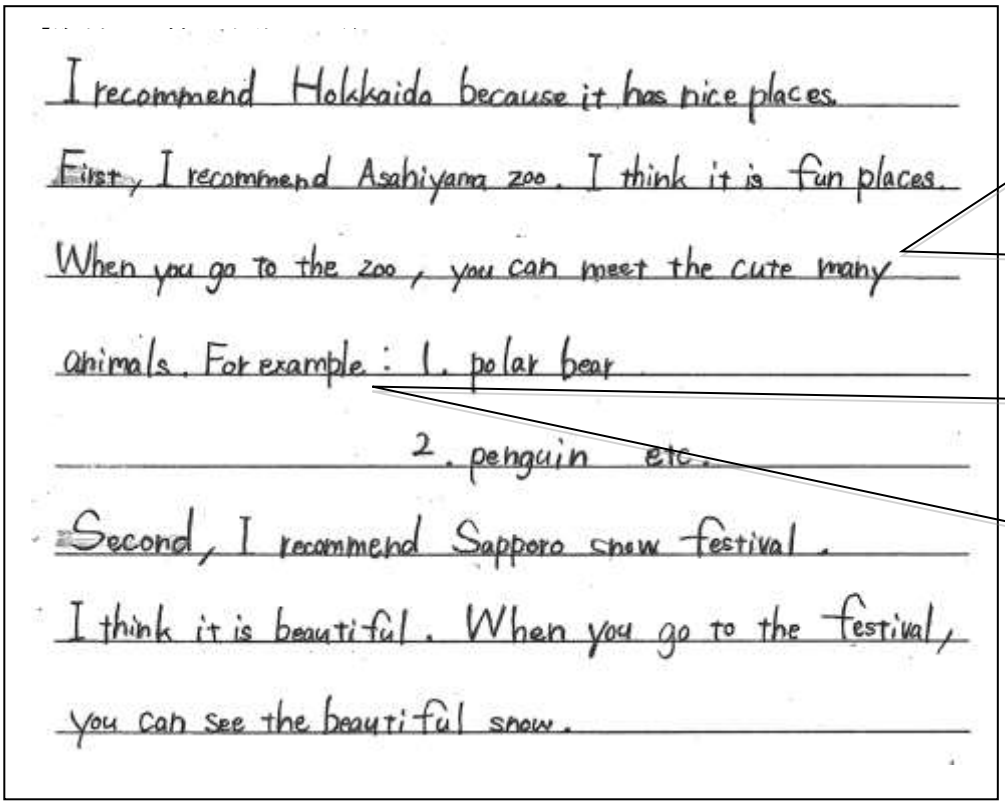
検証内容	検証方法		評価基準
単元のテーマに沿って、文と文のつながりを意識しながら、まとまりのある文を書くことができたか。（談話能力）	・単元のまとめとしての自己表現文の分析（discourse marker の使用）	A	discourse marker５つ以上を用いて、かつ７文以上を書くことができる。
		B	discourse marker２～４つを用いて、かつ４～６文を書くことができる。
	・まとまりのある文（文の数）	C	discourse marker を用いて４文を書くことができていない。

単元のまとめの文の分析によると、実践１ではＡが１人、Ｂが 20 人。実践２ではＡが９人。Ｂが 20 人。４文を書くことができない生徒は３人であったが、discourse marker を用いることは全員できていた。実践１ではＢ評価以上の生徒が 63.6%に対して、実践２では 87.8%であった【資料６】。

実践１のときに比べ、Ａ評価の割合が高まった理由としては以下の３つが考えられる。まず、実践１で学習した段落構成をするための First, Second, Third などの接続語が定着し、それらを用いて書けるようになったことがあげられる。３１人の生徒がこれらを用いて段落を構成していた。次に、実践２で because などの接続詞と for example, as for などの接続語を学習したこと、また Bridge Sheet で also の使い方を意識付けさせたことで discourse marker の表現の幅が広がった。さらに、Bridge Sheet の Step7 で書いたまとめの自己表現のための蓄積英作文を活用し、イメージマップを見なが

ら、それらをつなぎあわせて４文以上で自分の考えを表現できた。

これらのことから、生徒は文と文のつながりを意識してより多くの discourse marker を用いてまとまりのある文を書くことができていると言える。C 評価の生徒はイメージマッピングが膨らみすぎて、第二次で書いた単元のまとめとしての自己表現文をどのようにつなげて書けばよいかわからずに戸惑っていた。そこで、今後はイメージマッピングの中から特に伝えたい項目を選ぶための手だて、さらには生徒の思考をつなぐイメージマッピングのあり方を工夫する必要がある。


I recommend Hokkaido because it has nice places.
First, I recommend Asahiyama zoo. I think it is fun places.
When you go to the zoo, you can meet the cute many
animals. For example: 1. polar bear
2. penguin etc.
Second, I recommend Sapporo snow festival.
I think it is beautiful. When you go to the festival,
you can see the beautiful snow.

第二次の Bridge Sheet[Step7（自己表現文のための文蓄積)]で作成した一文を用いている。

新出言語材料 when, because, や discourse marker の for example などを用いながら、つながりのある内容で、自分の思いや考えをしっかりと述べている。

【資料７　抽出生徒Ｂの単元まとめとしての自己表現文】

８　研究の成果と課題

○Bridge Sheet を用いた自己表現活動において、新出言語材料を使って自分の思いや考えを繰り返し伝え合ったことで、生徒の文法能力を高めることにつながった。

○Bridge Sheet で蓄積英作文をし、モデルリーディングを参考にそれらをつなぎあわせて単元のまとめの自己表現文を書いたことは、生徒の談話能力を高めることにつながった。

●Bridge Sheet[Step6（友達からの聞き取りの英文再現）][Step7（第三次の自己表現文に向けての文蓄積）]や第三次での付加修正の仕方を工夫するなどの手だてが必要である。

●イメージマッピングの中から特に伝えたい項目を選ぶための手だて、さらには生徒の思考をつなぐイメージマッピングのあり方を工夫する必要がある。

＜参考文献＞

文部科学省　（2008）　『中学校学習指導要領解説−外国語編−』　開隆堂

米山朝二　（2003）　『英語教育指導法事典』　研究社

田畑光義・松井孝志（2008）　『パラグラフ・ライティング指導入門』　大修館書店

井手眞理　（2009）　『まとまりのある英文で表現する能力を高める英語科学習指導法の研究』
〜対話シートを用いたインタラクションとサンプルリーディングを位置づけた学習過程を通して〜
福岡教育大学付属久留米中学校研修報告書